

1. 地域の特徴

中国山地の中央に位置する鳥取県日南町。人口最少県の鳥取県の中で、一番高齢化率が高い自治体。面積の9割を森林が占め、高齢化率50%を超え、過疎・少子高齢化が進行する「日本の30年後の姿」の町として多くの学術機関におけるモデル地域となっている。

農林業を中心とした“第一次産業”を主役とし、緩やかな人口減少と持続可能を両立させる町民総活躍の「創造的過疎」のまちづくりへ挑戦している。“森と人づくり”による新たな循環型林業の創造や、中山間地域における「新たな価値創造によるSDGsのまちづくり」を理念に、中山間地域のモデルとなるまちを目指している。



2. 応募のきっかけ

人口減少や過疎・少子高齢化といった課題、また、地域資源に乏しい中山間地域においてはパートナーシップによるまちづくりが不可欠であり、持続可能なまちづくりを目指していく中で、多様なステークホルダーとの連携が欠かせないと判断し、「創造的過疎」のまちづくりとSDGsの理念が一致したため、SDGs未来都市への手上げを行った。

2019年、基幹産業である「第一次産業を元気にする～SDGsにちなんチャレンジ2030」を旗印にSDGs未来都市に選定された。



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



3. 取組の内容と成果

「森林資源を活用した“循環型林業の創造”」

日南町の恵まれた森林資源を活用し、かつ多様なパートナーとの連携により、関係・交流人口の拡充、ヒトモノコトカネを圏域で循環させるJ-クレジットの販売による経済循環、脱炭素の取り組み、林産業を担う人づくりの全国初の町立林業アカデミー開校による人材育成の拠点化、新たな木工加工品として廃材を活用した“寄木細工”による商品化及び雇用の創出、森林教育の推進による関係、交流人口の創出やSDGs修学旅行の誘致など、森林・林業分野における新たな価値創造を行った。



J-クレジット販売増



林業アカデミー開設



寄木細工SDGsバッジ



SDGs修学旅行誘致



森林教育の推進

「SDGsの理念を踏まえたまちづくりへの機運醸成」

大手農機具メーカーと連携した有機農業（オーガニックビレッジ・有機の産地づくり）の推進、県内外の学術機関と連携した中山間地域における持続可能なまちづくりの在り方を検証する取り組み、住民参加のまちづくり、そのほか、SDGs未来都市として積極的な情報発信を行い、持続可能なまちづくりへのチャレンジを継続して行っていく。



有機農業の推進



慶応義塾大学との連携



住民参加型の
コミュニティ拠点整備



廃棄農産物を活用
した新たな商品づくり



買い物して環境貢献
“SDGs宣言”道の駅

4. 選定されてよかったこと

SDGs未来都市に選定いただいて以降、共通の理念を有する多様なパートナーとの連携により、これまでには無かった新たな関係・交流人口の拡充、新たな“経済循環”を促す仕組みづくりの構築へとつながった。

とくに2019年当時は、SDGsの目標達成への理解が急速に広まった時期でもあり、多様な企業・メーカーはもちろん、自治体からの視察や連携の提案が後を絶えなかった。

日南町としてもこれを契機に様々な情報発信、企業連携等を図り、まちづくりに対する右欄のような高い評価をいただくことができた。

SDGs未来都市選定（2019年度）
2050年ゼロカーボンシティ宣言（2020年度）
内閣府・地方創生SDGs金融表彰（2021年度）
総務省・ふるさとづくり大賞（2021年度）
NIKKEI脱炭素アワード（2021年度）
行革甲子園 審査委員長特別賞（2022年度）

5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

2019年当時、地域（とりわけ中山間地域）においてはSDGsというワードすら知られていないこともあり、地域住民への理解・浸透はもちろん、庁舎内における機運醸成に苦労した。町の中心である日南町役場庁舎内に、日南町出身の創業者であるサクラクレパスの塗料を用いてSDGsのアイコンカラーである17色に色付けした和傘を吊るし、「SDGsアンブレラスカイ」を展示した。

SDGsの理念を広く住民とともに理解するために、地域のメディア、広報等を積極的に活用し、町民ワークショップや出前学習会を開催するなどした。



6. 今後の展開

「日本の30年先に行く自治体」として、過疎研究のフィールド、産官学金の多様なパートナー、企業、学術機関などのサテライト拠点の整備、デジタル技術等を活用した全産業における省力化・効率化を図っていくための実証の場として、中山間地の価値を創造する「未来社会のデザインの場」として実装していく。

7. 他地域への展開等

日本の7割といわれる中山間地域において、日南町の取り組みが「日本の中山間地域のモデルを創る」という自負を持ち、とくに日南町SDGs未来都市計画「SDGsにちなんチャレンジ2030」で掲載している取り組みは、森林を有するすべての自治体で横展開できるものであり、それぞれの圏域における経済循環、関係・交流人口の創出、脱炭素の機運醸成が図れば、中山間地域における新たな価値創造につながるものと考えている。

8. その他

“第一次産業を元気にするSDGsにちなんチャレンジ2030”の取り組みにおいて、多くの自治体や企業の皆様とのご連携、視察の受け入れや講演会等で日南町の取り組みをご紹介させていただいております。ご縁に感謝するとともに、私ども小さな町の小さな取り組みではありますが、まちづくりにおいて何かのご参考になれば幸いです。

デジタルが切り開く日南町の未来

- 人口減少下でも持続可能で活力ある地域を創っていくためには、広大な面積を持つ日南町において、今までの取組組織を固るだけでは不十分。
- 「住民生活の質の維持・向上」、「担い手・人材不足のカバー」には、**デジタルとリアル**の融合による**新たな発想からの地域生活圏の形成を目指す**必要がある。

デジタル技術 × 地場産業
デジタル技術 × コロナ危機を乗り越える
デジタル技術 × 働き方
デジタル技術 × 教育・医療・福祉等

自らが持てる強みを生かす
東京一極集中を是正し、大都市の構造的な脆弱性を克服するためには、地方においてこそデジタル技術が必要
回りを強みに転じる

地方の強みを生かす、世界と繋がる産業の創出
場所にとらわれない働き方を実現し、暮らしやすさの実現
持続可能な地域経済の実現
強靱な社会経済構造の構築
暮らしの質の向上
最先端の教育・医療・福祉等のサービスを提供

多様な魅力ある仕事を数多く創出
デジタル技術 × 働き方 × エコスタイル
中山間地域における生産・インフラの構築

第一次産業を中心に展開